

# 安心して暮らせる街に

## マイタウン特別対談

木本眞医師会長



司会(マイタウン)

今回はお忙しいところ、集まつていただき、ありがとうございました。早速ですが、今治市の医療現場の課題や今後の展望や方針などを伺います。

菅市長

戦後からずっと、今治市の医療はやりくりができていました。看護師や保育士の育成までできており、市として自立していると思います。県立今治

マイタウンは先日、菅良二市長と木本眞医師会長による特別対談を行いました。対談の中で、救急体制は崩壊寸前、老朽化が進む県立今治病院の早期建て替え、人口の3割以上が65歳以上と様々な課題が浮き彫りに。そんな現状を打開し、安心して暮らせる街にしようと、今後の展望や課題などについても話し合いました。

## 「地域医療は危機的状況」 木本 医師会長



木本 真 今治市医師会会長

今治市出身。順天堂大学医学部卒業。1978年岡山大学医学部付属病院放射線科に入局し、1992年には助教授に。専門は放射線科・内科。1995年、放射線第一病院へ。2008年に理事長就任。2014年、今治市医師会会長に就任し、地域医療の充実・連携に邁進。

## 医師、医療スタッフ不足

木本医師会長  
市や医師会が今後、努力すべきところは、いかに亡くなる人の数を減らし、生まれてくる赤ちゃんの数を増やすかです。現在、今治市では年間約1000人の赤ちゃんが誕生し、約2500人が亡くなっています。毎年、約1500人ずつ減っています。

病院の支援がなくても開業医の先生を中心に頑張つくれていた時代もありましたが、今は課題がたくさんありますね。

菅市長

今治市は幸いにも脳血管疾患には県立今治病院による超急性期の梗塞患者への迅速な治療が行える体制ができました。また循環器疾患に対しても、昨年4月から県立今治病院、済生会今治病院、今治第1病院において急性冠症候群のネットワークが構築され、急性心筋梗塞の早期治療や早期救命に大きく貢献してくれています。

市民の皆さんが、この街で安心して暮らすためには、医療提供体制の維持が必要。今後も引き続き、市と医師会が一体となつていただきたい。

その運営資金は、今治市が捻出してくれたおかげで、医師会としても非常に助かりました。しかし、今のままでは将来の救急医療はもたない。どの病院もギリギリのスタッフで救急を担当しており、早急に次の手を考えなければいけません。医師や看護師、薬剤師など医療従事者が都市部へ集中し、地域医療は危機に陥っています。

木本医師会長  
市や医師会が今後、努力すべきところは、いかに亡くなる人の数を減らし、生まれてくる赤ちゃんの数を増やすかです。現在、今治市では年間約1000人の赤ちゃんが誕生し、約2500人が亡くなっています。毎年、約1500人ずつ減っています。